

お 知 ら せ

会員各位

一般社団法人日本新生児成育医学会
感染対策予防接種委員会
委員長 森岡 一朗

先天性サイトメガロウイルス感染症、先天性トキソプラズマ症について 妊婦さんとその関係者に対する啓発文

先天性サイトメガロウイルス感染症は、感音性難聴、神経発達症、てんかん等、中枢神経障害の重要な原因疾患であり、わが国でも年間3,000人を超す胎児が感染するとされています。従来考えられていた妊婦さんの初感染のみならず、ウイルスの再活性化や再感染による垂直感染が多いことも判明していますが、基本的には妊婦さんが他の人からウイルスをもらわないことが重要です。

先天性トキソプラズマ症は、妊婦さんが食肉や動物の排泄物などから感染することにより胎児にまで感染が及んだもので、死産および自然流産のほか、児に知的障害、視力障害、脳性麻痺など重篤な症状をもたらすことがあります。食材の多様化に伴う加熱の弱い加工肉食品を摂食する機会の増加、ペットとしての猫の割合の増加等の理由により、今後も感染が拡大する可能性が懸念されています。

この2つの先天性感染症は、現時点の医療水準において後遺症なく治癒を得ることの難しい疾患です。そのため本学会として、全ての妊婦さんおよび妊娠が可能な年齢の女性と家族や保育者などの関係者に、これらの感染症予防法を周知・啓発する必要があると考え、啓発文（次ページ）を公表することとしました。

2017年12月1日

妊婦さんから胎児へのサイトメガロウイルス、トキソプラズマの感染に注意しましょう

サイトメガロウイルス、トキソプラズマなどの病原体は、妊婦さんから赤ちゃん（胎児）に感染して、病気を起こすことがあります（母子感染）。

サイトメガロウイルス母子感染はわが国で年間3,000人を超えるとされ、決してまれな病気ではありません。母子感染が起こった場合には、1割くらいの赤ちゃんに重い難聴や重い後遺症を含め、さまざまな程度の合併症を残すとされています。また、保育園や幼稚園など小さい子どもが多い環境では、子どもたちの間でサイトメガロウイルスの感染が発生しています。感染したお子さんの体液や排泄物中のサイトメガロウイルスが、妊娠中の職員やお母さんに感染する可能性があります。

トキソプラズマ母子感染の頻度はサイトメガロウイルスの10分の1くらいとされますが、妊婦さんが初感染し赤ちゃんに感染した場合には、死産・自然流産や赤ちゃんに視力障害や脳性麻痺など重い後遺症をもたらすことがあります。土や砂、動物の排泄物や、加熱の不十分な食肉などに含まれるトキソプラズマの感染によるとされます。

サイトメガロウイルスやトキソプラズマの合併症には、治療しても回復しないものもあります。このため、妊娠の可能性のある女性や妊婦さんは、感染予防対策について正しい知識を身につけて実践することが大切です。

1. 子どもの体液には注意しましょう！ 石鹼と流水で手をよく洗いましょう！

子どもの体液と排泄物にはサイトメガロウイルスが含まれることがあります。子どもと遊んだ後、汗以外の体液（血液、よだれ、涙）を拭いた後、排泄物（尿や便）を片付けた後、調理や食事の前後には、石鹼と流水で15～20秒かけて手洗いをしましょう。どうしても手を洗えないときは消毒用ハンドジェルを使いましょう。

子どもが口に持ってきたスプーン、フォーク、食器、おもちゃなどは口にしないようにしましょう。歯ブラシなど体液が付く品物を共有すること、口や頬へのキス、食べ物の口移し、飲み残し・食べ残しを飲んだり食べたりすることはやめましょう。おもちゃや食卓、タオルや衣服などのよだれや尿がつきやすい物や場所を清潔に保ちましょう。

2. 土や砂、動物の排泄物に触れた後は石鹼と流水で手をよく洗いましょう！しっかり加熱したものを食べましょう！

土や砂、動物（猫など）の排泄物にはトキソプラズマが含まれることがあります。これらに触れるときは、使い捨て手袋をつけて作業するか、その後に石鹼と流水でよく手を洗いましょう。

加熱が不十分な肉や肉の加工品、乳製品にはトキソプラズマが残っている場合があります。十分に火が通っていないジビエ料理、ローストビーフ、レアステーキ、生肉（牛刺し、馬刺し、鳥刺し）、生ハム、生サラミ、肉のパテ、無加熱の「ナチュラルチーズ」、殺菌されていないミルクなどは、食べたり飲んだりしないようにしましょう。生野菜や果物はしっかり洗って食べましょう。